



パーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー

この章では、サポートされている Microsoft サーバでのパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフローと、Skype for Business/Lync/OCS から IM and Presence サービスにユーザーを移行するワークフローについて説明します。

- [Skype for Business を使用したパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー, 1 ページ](#)
- [Lync を使用したパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー, 2 ページ](#)
- [OCS を使用したパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー, 5 ページ](#)
- [Microsoft サーバから IM and Presence サービスへのユーザーの移行のための設定ワークフロー, 6 ページ](#)
- [IM and Presence と Microsoft サーバドメイン間フェデレーションフェデレーション機能との統合の設定ワークフロー, 7 ページ](#)

Skype for Business を使用したパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー

IM and Presence サービスは、Skype for Business で IM and Presence のみとのダイレクトフェデレーションをサポートしています。IM and Presence + 通話はサポートされていません。

IM and Presence サービスの設定

- 1 必要なプレゼンスドメインが、クラスタのすべての IM and Presence サービスノードに設定されていることを確認します。IM and Presence サービスの設定済みドメインの確認、および新規

ローカル ドメインの追加手順については、『*Configuration and Administration of IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

- 2 複数のノードを持つチャット専用の展開の場合は、専用のルーティング ノードを設定します ([IM and Presence 用のルーティング ノードの設定](#) を参照)。
- 3 クラスタ ノードに必要な不可欠なサービスを開始します ([クラスタの機能サービスの開始](#) を参照)。
- 4 フェデレーション ウィザードを使用して、TLS スタティック ルート、TLS ピア、アクセス コントロール リスト、アプリケーション リスナー ポートなど、Skype for Business でフェデレーション設定を構成します ([ドメイン内フェデレーションの設定](#) を参照)。
- 5 IM and Presence サービス用の CA 証明書の設定：
 - a 認証局 (CA) のルート証明書のインポート：[認証局のルート証明書のインポート](#)を参照してください。
 - b CA 署名付き証明書の要求：[IM and Presence サービスの証明書署名要求の生成](#)を参照してください。
 - c CA 署名付き証明書のインポート：[CA からの署名付き証明書のインポート](#)を参照してください。

Skype for Business の設定

- 1 Skype for Business サーバで、IM and Presence サービスのルーティング ノードを指すスタティック ルートを設定します ([Skype for Business からのスタティック ルートの設定](#) を参照)。
- 2 Skype for Business サーバで、IM and Presence サービスを信頼できるアプリケーションとして割り当て、IM and Presence クラスタ ノードを信頼できるサーバプールに追加します ([信頼できるアプリケーションの設定](#) を参照)。
- 3 IM and Presence サービス クラスタ ノードを追加したら、Skype for Business トポロジを公開します ([トポロジのパブリッシュ](#) を参照)。
- 4 IM and Presence と Skype for Business の間で証明書を交換します ([証明書の交換](#) を参照)。

Lync を使用したパーティションイントラドメイン フェデレーションの設定ワークフロー

IM and Presence サービスおよび Microsoft Lync サーバ間のパーティションイントラドメイン フェデレーションを設定するには、次のワークフローを使用します。

この設定では、チャット専用の展開とチャット + 通話の展開の両方をサポートしています。

IM and Presence サービスの設定

- 1 必要なプレゼンス ドメインが、クラスタのすべての IM and Presence サービス ノードに設定されていることを確認します。IM and Presence サービスの設定済みドメインの確認、および新規ローカル ドメインの追加手順については、『*Configuration and Administration of IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- 2 複数のノードを持つチャット専用の展開の場合は、専用のルーティング ノードを設定します（[ルーティング ノードの設定](#) を参照）。
- 3 必要不可欠なサービスを開始します（[クラスタの機能サービスの開始](#) を参照）。
- 4 パーティションイントラドメインフェデレーションを有効にする：[パーティションイントラドメインフェデレーション オプションの設定](#)を参照してください。
- 5 スタティック ルートを Lync の配置に設定する：[Microsoft Lync へのスタティック ルートの設定](#)を参照してください。
- 6 Lync 配置のアクセス コントロール リストを設定する：[着信アクセス コントロール リストの設定](#)を参照してください。
- 7 IM and Presence サービスおよび Lync 間の TLS 暗号化の設定
 - a アプリケーションリスナーの設定：[アプリケーションリスナーポートを設定します。](#)を参照してください。
 - b TLS ピア サブジェクトの設定：[TLS ピア サブジェクトの設定](#)を参照してください。
 - c ピア認証 TLS コンテキストの設定：[ピア認証 TLS コンテキストの設定](#)を参照してください。
 - d 認証局 (CA) のルート証明書のインポート：[認証局のルート証明書のインポート](#)を参照してください。
 - e CA 署名付き証明書の要求：[IM and Presence サービスの証明書署名要求の生成](#)を参照してください。
 - f CA 署名付き証明書のインポート：[認証局からの署名付き証明書のインポート](#)を参照してください。



(注) パーティションイントラドメインフェデレーションは、IM and Presence サービスおよび Microsoft Lync または OCS 間の連続したフェデレーションのみをサポートします。フェデレーションサーバ間のファイアウォール (ASA) はサポートされません。

Expressway Gateway の設定

チャット+通話の展開の場合のみ。Expressway Gateway で、Microsoft の相互運用性を設定し、SIP ブローカを有効にします。Expressway Gateway の構成の詳細情報については、次の URL で『*Cisco Expressway with Microsoft Lync Deployment Guide*』を参照してください。

<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/expressway-series/products-installation-and-configuration-guides-list.html>



(注) チャットのみの展開の場合は、Expressway Gateway を展開する必要はありません。

Lync の設定

- 1 Lync サーバで設定されたイントラドメインフェデレーションのプレゼンス ドメインに、IM and Presence サービス ノードで設定されたプレゼンス ドメインと一致するドメインがあることを確認します。IM and Presence サービスの設定済みドメインの確認、および新規ローカルドメインの追加手順については、『*Configuration and Administration of IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- 2 Lync サーバで、Expressway Gateway (チャット+通話の場合) または IM and Presence サービス ルーティング ノード (チャット専用の場合) を指す TLS スタティック ルートを設定します。詳細は、[Microsoft Lync でのスタティック ルートの設定](#)を参照してください。
- 3 IM and Presence サービスを信頼されたアプリケーションとして追加します。信頼されたアプリケーションプールに IM and Presence クラスタ ノードを追加します ([Lync 用の信頼できるアプリケーションの設定](#)を参照)。
- 4 トポロジのパブリッシュ : [トポロジのパブリッシュ](#)を参照してください。
- 5 CA ルート証明書が LCS サーバごとにインストールされるようにする : [Lync への認証局のルート証明書のインストール](#)を参照してください。
- 6 すべての Lync サーバに必要な署名付き証明書があるようにする : [既存の Lync 署名付き証明書の検証](#)を参照してください。
- 7 認証局から要求の署名付き証明書を要求する : [Lync の認証局から署名付き証明書を要求](#)を参照してください。
- 8 CA サーバから証明書をダウンロードする : [CA サーバから証明書をダウンロード](#)を参照してください。
- 9 署名付き証明書のインポート : [Lync の署名付き証明書をインポート](#)を参照してください。
- 10 証明書の割り当て : [Lync への証明書の割り当て](#)を参照してください。
- 11 サービスの再起動 : [Lync サーバでのサービスの再起動](#)を参照してください。



ヒント ユーザへの影響を最小限に抑えるために、オフピーク時にフロント エンド サービスを再起動するように計画します。

サーバを設定した後、ユーザを移行することができます。

OCS を使用したパーティションイントラドメインフェデレーションの設定ワークフロー

次のワークフローを使用して、IM and Presence サービスと OCS 2007 R2 間のパーティションイントラドメインフェデレーションを設定します。

IM and Presence サービスの設定

- 1 必要なプレゼンス ドメインが、クラスタのすべての IM and Presence サービス ノードに設定されていることを確認します。IM and Presence サービスの設定済みプレゼンス ドメインを確認し、新規ローカルプレゼンス ドメインを追加する手順については、『*Configuration and Administration of IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
- 2 ルーティング ノードとして機能するクラスタ ノードを選択します（[ルーティング ノードの設定](#)）。
- 3 クラスタ全体で必要不可欠なサービスを開始します。[クラスタの機能サービスの開始](#)
- 4 パーティションイントラドメインフェデレーションを有効にする：[パーティションイントラドメインフェデレーションオプションの設定](#)を参照してください。
- 5 OCS 展開へのスタティックルートの設定：[Microsoft Lync へのスタティックルートの設定](#)を参照してください。
- 6 OCS 展開のアクセスコントロールリストの設定：[着信アクセスコントロールリストの設定](#)を参照してください。
- 7 （任意）IM and Presence サービスおよび OCS 間の TLS 暗号化の設定：
 - a アプリケーションリスナーの設定：[アプリケーションリスナーポートを設定します。](#)を参照してください。
 - b TLS ピア サブジェクトの設定：[TLS ピア サブジェクトの設定](#)を参照してください。
 - c ピア認証 TLS コンテキストの設定：[ピア認証 TLS コンテキストの設定](#)を参照してください。
 - d 認証局（CA）のルート証明書のインポート：[認証局のルート証明書のインポート](#)を参照してください。
 - e CA 署名付き証明書の要求：[IM and Presence サービスの証明書署名要求の生成](#)を参照してください。
 - f CA 署名付き証明書のインポート：[認証局からの署名付き証明書のインポート](#)を参照してください。

OCS の設定

- 1 OCS サーバで設定されたイントラドメインフェデレーションのドメインに IM and Presence サービス ノードで設定されるドメインと一致するプレゼンス ドメインがあることを確認します。

IM and Presence サービスの設定済みドメインの確認、および新規ローカルドメインの追加手順については、『*Configuration and Administration of IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

- 2 ポート 5060 の有効化：[OCS サーバでのポート 5060/5061 の有効化](#)を参照してください。
- 3 IM and Presence サービス導入にスタティック ルートを設定する：[IM and Presence サービスをポイントする OCS のスタティック ルートの設定](#)を参照してください。
- 4 IM and Presence サービス導入にホスト認証を追加する：[OCS での IM and Presence サービスのホスト認証の追加](#)を参照してください。
- 5 (任意) IM and Presence サービスおよび OCS 間の TLS 暗号化の設定：
 - a TLS 相互認証が OCS サーバごとに設定されるようにする：[TLS 相互認証の OCS での設定](#)を参照してください。
 - b CA ルート証明書が OCS サーバごとにインストールされるようにする：[認証局ルート証明書の OCS へのインストール](#)を参照してください。
 - c すべての OCS サーバに必要な署名付き証明書を持たせる：[既存の OCS 署名付き証明書の検証](#)を参照してください。
 - d 必要に応じて、新しい署名付き証明書を要求する：[OCS サーバの認証局から署名付き証明書の要求](#)を参照してください。
- 6 サービスの再起動：[OCS フロント エンド サーバでのサービスの再起動](#)を参照してください。



ヒント

ユーザへの影響を最小限に抑えるために、オフピーク時にフロント エンドサービスを再起動するように計画します。

サーバを設定した後、ユーザを移行することができます。

Microsoft サーバから IM and Presence サービスへのユーザの移行のための設定ワークフロー

Skype for Business/Lync/OCS から IM and Presence サービスにユーザを移行するには、次のワークフローを使用します。

- 1 ユーザ移行ツールのダウンロード：[シスコのユーザ移行ツール](#)を参照してください。
- 2 無制限の連絡先リスト サイズとウォッチャ サイズを IM and Presence サービスで設定する：[無制限の連絡先リストとウォッチャの設定](#)を参照してください。
- 3 登録要求の自動承認を有効にする：[サブスクリプション要求の自動許可の有効化](#)を参照してください。
- 4 移行するユーザの Microsoft サーバ SIP URI 形式を確認する：[を参照してください](#)。 [移行するユーザ用の Microsoft サーバ SIP URI 形式の確認](#)

- 5 必要に応じて、IM and Presence サービス連絡先リストのコンタクト ID の名前を変更する：を参照してください。 [IM and Presence サービスの連絡先リスト内のコンタクト ID の変更](#)
- 6 IM and Presence サービスで移行するユーザのプロビジョニングをする： [Lync/OCS/LCS](#) を参照してください。
- 7 移行するユーザ用の Microsoft サーバデータのバック アップする： [Lync/OCS/LCS](#) を参照してください。
- 8 移行するユーザ用の Microsoft サーバの連絡先リストをエクスポートする： [ユーザを移行するための連絡先リストのエクスポート](#) を参照してください。
- 9 移行するユーザ用の Microsoft サーバアカウントを無効する： [Lync/OCS/LCS](#) を参照してください。
- 10 移行するユーザ用の Microsoft サーバアカウントが無効になっていることを確認する： [Lync/OCS/LCS](#) を参照してください。
- 11 移行するユーザ用の Microsoft サーバのユーザデータを削除する： [ユーザを移行するためのデータベースからのユーザデータの削除](#) を参照してください。
- 12 移行するユーザ用の IM and Presence サービスに連絡先リストをインポートする： [IM and Presence にユーザを移行するための連絡先リストのインポート](#) を参照してください。
- 13 IM and Presence サービスの連絡先リストおよびウォッチャ制限をリセットする： [連絡先リストと最大ウォッチャの最大サイズのリセット](#) を参照してください。

IM and Presence と Microsoft サーバドメイン間フェデレーションフェデレーション機能との統合の設定ワークフロー



(注) このワークフローを開始する前に、Skype for Business/Lync/OCS とのパーティションイントラドメインフェデレーションを設定し、正しく動作するようにします。ご使用の導入内でのパーティションイントラドメインフェデレーションの設定については、該当するワークフローを参照してください。

- 1 IM and Presence サービスのフェデレーテッドプレゼンス ドメインをそれぞれ設定する：次を参照してください。 [Microsoft サーバのドメイン内フェデレーション接続を介したドメイン間フェデレーションのリモート ドメインのセットアップ](#)
- 2 IM and Presence サービスでリモートプレゼンス ドメインをホストしている各サービスにスタティック ルートを設定する：次を参照してください。 [リモート ドメインへのスタティック ルートの設定](#)

■ **IM and Presence** と **Microsoft** サーバドメイン間フェデレーションフェデレーション機能との統合の設定
ワークフロー